



## トマトとキュウリの栽培管理について



秋田地区営農センター 本川 鈴香

### トマト

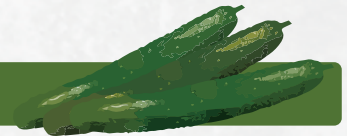


栄養価が高く、近年では美容やダイエット効果もあると益々需要の高まった夏野菜の定番であるトマトは、強烈な暑さには強くありません。そのため、夏場はハウスツマ面を撤去し、通風を良くして温度の上昇を防止してください。

かん水は3段目の開花までは極力控えましょう。盛夏期は晴天時で1株当たり1～1.5Lが目安です。追肥は2～3段目の開花以降急激に樹勢が落ちるため、「燐硝安加里S646」を120～180g/10㎡施用してください。

収穫は朝の涼しい時間帯に行い、収穫後も涼しい場所に置いてください。

### キュウリ



たっぷりと水分を含んでいるキュウリは、夏バテ予防に欠かせない野菜です。しかし35℃以上の高温や5℃以下の低温にあうと、生育遅れや変形果の発生等の生育障害が起きてしまうので温度管理に注意が必要です。

かん水は収穫するまで敵肩、収穫盛期は通路に、朝の涼しい時間帯で行いましょう。追肥は1回目の収穫開始時に行い、その後は10日～2週間ごとに行いましょう。1回あたり「燐硝安加里S646」を120～180g/10㎡施用してください。果実に曲がりや尻太りの傾向が見られたら早めの追肥を行いましょう。また、多乾湿を繰り返すと根の老化が早まり、樹勢が低下してしまうため、収穫開始後は常に通路がやや湿っている状態を保ちましょう。

### ● トマト・キュウリの病害虫

これからの時期は花卉や果実に灰色のカビが生じ、果柄、主枝に被害が広がる「灰色かび病」や、下葉から淡黄色の小さな斑点を生じ、次第に上葉に被害が広がる「べと病」等の病気に注意してください。併せて、収穫後等に樹勢が落ちると「うどんこ病」にも注意が必要です。また、アブラムシやハダニ等の発生盛期になるので注意が必要です。

#### 主な薬剤

薬剤名	症状	希釈倍率	使用時期	使用回数	使用方法
ロブラール水和剤	灰色かび病	1000～1500倍	収穫前日まで	トマト:3回以内 キュウリ:4回以内	散布
ダコニール1000	うどんこ病 べと病	1000倍		トマト:4回以内 キュウリ:8回以内	
マラソン乳剤	アブラムシ類 ハダニ類	2000～3000倍		トマト:5回以内 キュウリ:3回以内	

